

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

(課名)

教育総務課	P 1
学校教育課	P 3
学校給食センター	P 5
生涯学習課	P 6
文化財課	P10
スポーツ推進課	P12

令和5年9月

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(教育総務課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和4年度の成果と課題	評価
教育委員会の活性化の推進	定例会・臨時会の開催状況	定例会・臨時総会の開催	定例会・臨時会の適切な時期の開催	毎月定例会を実施し、必要に応じて臨時会を開催することができた。 また、「奄美市教育委員会の行政組織等に関する規則」で定められた規定日開催に努めた。 定例会12回、臨時会1回	5
	議案の審議状況	審議内容の妥当性と委員の意見反映	委員の意見反映度	議案(報告)等の審議にあたっては適切な意見交換がなされ、教育行政へ反映された。 議案・報告11件については、すべて議決・承認された。 議案2件 報告9件	5
	教育委員の研修	研修の機会	県・地区等の研修内容	県教育委員会が実施した研修会に積極的に参加し、当面する教育課題等について、情報を共有し意見交換を行うことができた。また、研修内容について、教育委員会各委員の相互理解を図った。 県教育委員会連絡協議会定期総会0名、県教育委員会主催研修会1名	3
	教育委員の活動状況	教育委員会主催等行事への参加	学校、教委主催行事、その他行事の参加状況	学校訪問では、各委員が参加し、経営に関する指導や学校側との情報共有が行われた。なお、学校行事や教育委員会関連行事については、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、参加がなされた。	4
学校施設等長寿命化計画の推進	実施時期の検討	施設の健全度	業務委託の調査内容から適正な実施計画への反映	令和元年度3月末策定の学校施設等長寿命化計画(計画期間令和2年度～令和22年度)に基づき、令和5年度以降の実施計画を策定した。 長寿命化計画については、令和5年度に見直しを行うこととなっており、計画に沿って実施計画への適正な反映を行う。	4
良好な教育環境整備の推進	安全・安心な学校づくりと教育施設整備状況	施設整備と修繕等	主な施設整備の工事及び修繕等実績	各学校、教員住宅における改修工事や修繕等を実施した。緊急性があるものは優先的に行い、教育現場の環境維持保全に努めた。 現年度中に実施できず、翌年度予算に計上し対応したのもあったため、評価は4とした。 工事実績:小学校3件、中学校1件、小中学校1件 修繕実績:小学校 216件(執行率95.5%)、中学校 131件(執行率97.6%)、 教員住宅 117件(執行率99.9%)	4
ふるさと創生人材育成基金事業の充実	奨学資金の貸付・返還状況	出願者数及び返還状況	新規奨学生及び返還者実績	令和4年度は、新規奨学生17人を含む、奨学生52人に対し、19,270,000円の奨学金の貸与を行った。 貸付金の返還については、現年度の未納者、複数年に渡る滞納者への、督促通知の継続した実施や、口座振替の周知を強化し推進を進めたことが、徴収率の向上につながった。 徴収率の目標値は達成できたが、連帯保証人に対する通知・催告が課題であるため、評価は4とした。 徴収率 現年度 96.44%(目標:90.00%)、滞納繰越 33.87%(目標:26.70%) 全体 63.3%(目標:51.5%)	4

新型コロナウイルス感染症緊急対策事業	島外で頑張る学生応援事業実施状況	事業の周知及び申請状況	事業実績	コロナ感染症拡大の影響で、世帯収入やアルバイト収入の減少等により「学びの継続」が困難となっている島外の学生に、1人当たり30,000円の経済的支援を行った。 交付決定者 826人（予算計上:950人分）	5
--------------------	------------------	-------------	------	--	---

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(学校教育課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和4年度の成果と課題	評価
「確かな学力」の定着・向上	鹿児島学習定着度調査(小5年:4教科, 中1・2年:5教科)	県平均通過率を上回った教科の延べ数	県平均との差	小5は,3教科で県平均を超えることができた。一方,中学校は,1年生,2年生ともに全教科で県平均を上回ることができなかった。小学校で,県平均を超えた教科数が増えたり,中学校では,大きな課題であった数学で,県との差が少なくなったりするなどしたが,まだ課題が多く,今後も授業改善と家庭学習を大きな柱とした学力向上に取り組む必要がある。	2
	標準学力検査(小1~2年2教科, 小3~6年4教科, 中1~3年5教科)	全国における指数(偏差値)	CRT 全国通過率との比較(全24項目) NRT 偏差値平均(全14項目)	CRTでは,小1~小6の対象学年の調査科目,24項目のうち,16項目が全国を上回っている。NRTでは,中1~中3の対象学年の調査科目,14項目のうち,2項目のみ偏差値平均50を超えた。依然として中学校の学力の課題が残る。今後も,学力検査の結果から,個に応じた指導の充実につなげていく必要がある。	3
	一人一研究授業	各学校における研究授業の取組	研究授業の実施状況 目標100%	市内の教員(養護・栄養教諭を除く)の約97%(小学校100%,中学校92%)が,一人一研究授業を行った。小中33校中31校は100%の実施である。今後,達成できていない学校に呼びかけを行うなど,全小中学校で100%の実施を目指していく。このことを通して,学力向上の大きな柱である授業改善につながった。	5
	指導主事派遣	年間を通じた指導主事の派遣状況	派遣回数 目標80回	1年間を通しての校内研修への総派遣回数は67回(84%)であった。要望日程や諸行事との重複がないように調整し,今後も学校のニーズに応じた指導・助言ができるようしていく。	5
	あまみ授業セミナー	実施教科及び参加人数	参加人数 目標50人	前年度新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかったが,令和4年度は人数を制限し,小学校39人,中学校18人の参加者で実施した。小中学校各2教科(小学校:算数・理科,中学校:外国語・数学)の講師を招聘し,授業づくりや模擬授業を通じた授業力向上を図った。	5
	小・中連携研修会	授業をとおした研修会を実施した学校	中学校区単位での実施率 (小中が参加しての授業を通じた研修…年2回以上)	市内の全中学校区で小・中学校が参加して,学力面・生徒指導面の課題を共有し,その解決に向けた共通実践事項を策定したり,児童生徒の情報交換をしたりしている。また小・中学校で授業を通じた研修を行うため,研究授業を行う際には,中学校区の学校にも参加を呼び掛け,そのことが授業観の共有につながっている。	4
	特別支援教育支援員配置事業	・配置 ・資質向上 ・連携	適正な配置 研修の実施 事務局との連携	令和4年度については,35人の特別支援教育支援員を配置し,特別な支援を要する幼児児童生徒に寄り添った適切な学習支援を行うことができた。 研修については,県立大島養護学校から外部講師を招聘するなど,内容を充実させ実施することができた。	4
	講師配置事業(「あまみっ子」すくすくプラン)	配置基準学級数に対する実際の配置	適正な配置 達成割合	対象の学校がなかったため,次年度の採用に向け,各校の学級編成状況の把握に努めた。	-

不登校児童生徒への対応	あまみスクールソーシャルワーカー配置事業	長期欠席児童生徒への対応	相談・訪問後における児童生徒の通級、登校等の状況改善	コーディネーター1人を含む計10人のSSWが、学校と連携しながら、市当局及び各関係機関と連携を図り、具体的な情報共有を行うことで、児童生徒や保護者への支援を図ることができた。 特に、児童生徒のおかれている環境の改善に向けて、福祉関係や児童相談所、警察等と連携を図りながら、各家庭に働きかけ、支援に取り組む体制づくりを行うことができた。	4
	あまみスクールカウンセラー配置事業	不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒・保護者への対応	教育相談	公認心理士の資格をもつスクールカウンセラー1人を、名瀬地区の中学校区を中心に派遣し、児童生徒、保護者、教職員等を対象に年間55回(1回3時間)のカウンセリング等を実施することができた。スクールカウンセラーに学校では話づらいことを打ち明けることで、心が軽くなる様子も見られ、有益な教育相談が図られている。	4
	ふれあい教室相談員配置事業	不登校もしくは不登校傾向にある児童生徒への対応	相談・訪問後、通級、登校に至った児童生徒数(目標:7割以上)	教育相談員2人を配置し、学校からの依頼に応じて、15人(小学校3人、中学校12人)の通室があり、その内8人(53%)が登校に至ることができた。他者との交流をとおして、社会的自立に向けた支援を行うことができた。また、必要に応じて家庭訪問や電話相談に応じ、登校に課題を抱える児童生徒の支援を図ることができた。	4
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	新型コロナウイルス感染症対策用品整備事業	学校における新型コロナウイルス感染症対策用品の整備	対策用品の整備状況	学校保健特別対策事業費補助金及び新型コロナ臨時交付金を活用し、各小・中学校に配置する消毒用アルコールやペーパータオル等の消耗品や非接触型温度計、空気清浄機等の学校備品を整備し、感染予防対策を講じた。 消耗品費合計:3,154,261円 学校校具教具購入費(備品):2,092,859円	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(学校給食センター)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和4年度の成果と課題	評価
学校給食センターの管理運営	運営委員会の開催	年2回開催	給食センターの運営を適正かつ円滑に行うために委員の意見を反映	名瀬・住用地区、笠利地区ともに年2回の開催ができ、給食費の算定方法の見直しや物価高騰対策による給食費減免など共通認識を図ることができた。	4
	給食担当者の開催	学校と給食センターの連携	学校と給食センターの連携と情報の共有	運営委員会と同じく2回開催でき、給食費の算定方法の見直しや各種届出の修正など情報共有を行い、各学校とは給食便により日々の情報共有に努めた。	4
	米飯センター跡地の管理	米飯センター解体工事の実施	米飯センター施設の撤去	台風等により施設損壊が発生しており、近隣住宅や給食センターへの二次災害の可能性があるため、米飯センター施設の撤去及び跡地の整備を行った。 令和5年度への繰越工事となったが、施設撤去が完了し周辺の安全が確保され、跡地については一部を給食センター駐車場として活用予定である。	5
安全安心な給食の提供	衛生管理の徹底	衛生管理の徹底を行うための工夫	調理場における汚染区域と非汚染区域の区域分け	調理場における汚染区域と非汚染区域の区域分けと、それぞれの区域での手洗いと消毒の徹底を図った。また、納入食材の細菌検査を学期に1回、調理機器の細菌検査を年1回行っている。腸内細菌検査は毎月2回、全職員を対象に実施し衛生管理の徹底に努めた。	5
	食物アレルギー対応の充実	保護者との面談の実施	面談を行うことにより、個々の対応を実施	食物アレルギーは、命に関わることも考えられるため、保護者との面談を実施し、細心の注意を払って行うよう努め、個別に専用の容器を準備し確実に本人へ届くようにしている。 (対象者) ・名瀬・住用地区 82人 ・笠利地区 12人	4
	災害に強い学校給食センター	災害が発生した時の対応	災害が発生した時の対応及び今後の対策	道路の寸断や給食センターが被害に遭い、給食の提供ができないことを想定し、各学校へ非常食を配備している。	5
	地場産品の積極的な活用	県内産を含めた地場産品の活用	地場産品の活用と郷土料理による給食の提供	地場産品の活用と郷土料理による給食の提供を実施し、食育及び食文化の継承に努めた。 ・地場産品(生鮮野菜類) 群島内8.7%、県内26.1%	3
	給食献立の周知	奄美市公式ラインによる給食献立の配信	配信の継続	公式ラインにより、給食の写真に献立名と栄養教諭のコメントを添えて配信し、子供達が食べている給食を保護者に伝えることによって食に対する意識の向上と、食育の推進に努めた。	4
	新型コロナウイルス感染症緊急対策事業の実施	学校給食費の減免	保護者負担の軽減	保護者負担の軽減	新型コロナウイルス対策事業として、3学期の学校給食費の全額減免を行った。 ・名瀬・住用地区 対象者 3,023名:減免額 26,145,312円 ・笠利地区 対象者 429名:減免額 3,643,920円

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(生涯学習課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和4年度の成果と課題	評価	
お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな身体を育む教育の推進	道徳教育の充実	奄美市少年少女合唱団活動の充実	取組内容 団員数 出演実績	練習日を基本毎週1回(土曜日)としたが、夏までは新型コロナの影響から実施できなかった日も多かった。継続して参加する団員は限られているため、団員数の確保が課題。 団員数:14人(小学校11人・中学校3人) 出演実績:2回(大島高校クリスマスコンサート、奄美市まなびフェスタ)	3	
	人権教育の充実	ふれあい和光塾の実施	取組内容 参加者数	施設入所者の高齢化により、ハンセン病患者とのふれあいという当初の目的達成が困難なため、今後の事業実施方法については検討が必要である。 参加者数:31組(101人)	3	
		幼・小・中学校での家庭教育学級の学習内容の充実	取組内容 参加者数	全幼・小・中学校で実施され、「家庭学習に関する内容」「人権教育」「奄美の良さを学ぶ内容」を必須課題として実施した。講座の充実が図られるよう学習内容や実施日時等、工夫し実施された。 講座合計数:167回、各校講座回数:平均5.4回	4	
		子育て講座の推進	取組内容 参加者数	家庭教育支援員養成研修会(県事業)への参加者や読書団体など、多種多様な方々を講師とし、講座内容の充実が図れた。 参加者数:338人(20講座)	4	
	体験活動の充実	奄美大島5市町村合同イン・リーダー研修会の実施	-	-	新型コロナの影響により中止	-
		長野県小川村青少年交流事業の実施	-	-	新型コロナの影響により中止	-
		群馬県みなかみ町青少年交流事業の実施	-	-	新型コロナの影響により中止	-
	子どもの読書活動の推進	あまみ子ども読書新聞・応援プロジェクトの実施	取組内容・実績	地元新聞2社やあまみFMと連携し、「あまみ子ども読書新聞・応援プロジェクト」として、市内の全小・中学校から各校4名の児童・生徒の生活作文を毎月新聞へ掲載し、また朗読のラジオ番組を毎月1回放送した。	4	

未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進	郷土教育の推進	奄美市まなびフェスタの実施	取組内容 協力・出演団体数等 来場者数	名瀬・住用地区の生涯学習講座閉講式と同日開催。「みんなで輝かせよう！あまみっ子」と題し、島口による小・中学生の夢の発表、あまみ子ども環境調査隊者による報告等を行った。 協力団体数：9団体、出演団体数：20団体、出演児童・生徒数：13人、来場者数：1,100人	4
		奄美市文化・地域づくり功労表彰の実施	取組内容 受賞者数	令和5年3月5日、奄美川商ホールで開催した「奄美市まなびフェスタ」にて表彰式を行うことで、優良な取組を紹介した。 受賞者は、芸術文化功労賞(個人1人, 7団体)、・芸術文化優秀賞(個人7人, 3団体)、・地域貢献賞(個人2人, 2団体)、青少年健全育成賞(個人1人, 3団体) 合計26団体・個人	5
	環境教育	奄美・沖縄子ども環境調査隊交流事業の実施	取組内容 参加者数	7月に3泊4日で西表島に行き、現地調査を行った。その他、奄美大島でも調査活動を実施し、3月に行われた奄美市まなびフェスタにて、活動の成果を発表した。 隊員5人(小学生2人, 中学生3人)	5
地域全体で子供を守り育てる環境づくりの推進	地域ぐるみでの子供の育成	子ども会交流事業の実施	取組内容 参加者数	【名瀬地区】 子ども大会, 名瀬地区子ども会対抗球技大会とともに新型コロナの影響により中止 【笠利地区】 自然の家がやってきた in 笠利 創作・体験活動コーナー, ふれあい体験活動コーナー等のブースを設け、創作活動の重要性や必要性を学ぶ活動を行えた。 参加者数:168人(幼児:31人, 小学生:47人, 高校生:6人, 大人:84人)	4
		子ども会加入促進	取組内容 会員数	子ども会会員数は、児童・生徒数の減少に伴い、年々減少傾向にあるが、活動の充実を図られるよう努めたい。 会員数:幼児:44人, 小学生:2,106人, 中学生:561人, 高校生:35人, 保護者(指導者含む。):382人 計3,128人	4
	地域を支える次世代の人づくり	ジュニア・リーダー研修会への参加促進	取組内容 会員数	研修会やボランティア事業を実施 ジュニア・リーダークラブ「TsuMuGi」会員数:17人(高校生9人 中学生8人)	4
	社会教育団体指導者等研修会への参加促進	取組内容 参加者数	各社会教育団体の活動の充実を図るため、大島地区社会教育関係団体指導者等養成研修会への参加を呼びかけた。 奄美市の社会教育団体(女性団体, PTA, 子ども会, 老人クラブ)から4人が参加した。	3	
	二十歳のつどいの実施	取組内容 参加者数	【名瀬・住用地区】 令和4年度式典より、「新成人のつどい」から「二十歳のつどい」へと変わり、また住用地区と合同で実施となった。 参加者数:296人(男性:147人, 女性:149人), 成人者総数:466人 【笠利地区】 新型コロナ感染拡大防止対策を徹底し、式典は適切に執り行われた。 参加者数:47人(男性:23人, 女性:25人), 成人者総数:53人	5	

地域ぐるみでの安全・安心な環境づくり	青少年育成市民会議の開催	取組内容	【奄美市青少年育成市民会議】 奄美市いじめ問題対策連絡協議会と兼ねて開催。県、市、警察、児童相談所、学校、自治会、民間事業所等、それぞれの所管事項についての状況報告を行い、事業実施に向け連携強化を図った。 【笠利町青少年育成市民会議】 青少年健全育成の推進方策及び夏冬休業期間における推進事項の確認、各小・中・高・派出所・保護司からの青少年育成に関する現状報告をし、情報共有を図った。	4	
	愛の声かけ運動の実施	取組内容 参加者総数	通常活動：年間計画6回中、4回実施。新型コロナの影響等により2回中止。 特別活動（奄美まつり、高千穂神社六月灯、交通マナーアップキャンペーン）：年間計画3回中、高千穂神社六月灯が新型コロナの影響により中止となったため、2回実施。児童・生徒の非行防止及び交通マナーの遵守を啓発した。 参加者総数：198人	3	
	PTA研修会の実施	取組内容 参加者数 単位活動実績	各単位PTAの活動充実が図られるよう、総会及び研修会を実施した。 参加者数：総会52人、研修会（3回）計173人、ゆらおう会（新型コロナにより中止） 県PTA広報紙コンクール（小学校の部） 優秀賞 朝日小学校PTA 佐仁小学校PTA	4	
	家庭の教育力の向上	「家庭の日」の普及・啓発、定着	取組内容 市民清掃への参加状況	学校やPTA、スポーツ少年団等の総会を通じて「家庭の日（毎月第3日曜日）」の普及に努めた。市民清掃（毎月第3日曜日）への小・中学校の児童生徒の参加状況は、年間平均で約13.2%であった。今後も参加者数増加に向け啓発に努めたい。	3
生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興	生涯学習環境の充実	生涯学習講座の実施	取組内容 講座数 参加者数	講座開設を広く周知し、多種多様な講座を実施することができた。また、令和4年度は新型コロナの影響も緩和したことで、講座の参加者数も増加した。 講座数 93講座（名瀬地区：54講座・住用地区：10講座・笠利地区：29講座） 参加者数 1,953人（名瀬地区：1,240人・住用地区：134人・笠利地区：579人）	4
		公民館の充実	取組内容 利用者数 図書貸出冊数	新型コロナ感染防止に努めながら施設運営を実施。令和3年度と比較して利用者数も増加した。 名瀬公民館（分館含む）利用者数：36,083人、図書貸出冊数：17,196冊 住用公民館 利用者数：7,509人、図書貸出冊数：1,234冊 笠利公民館 利用者数：6,679人、図書貸出冊数：15,156冊	4
		アマホームPLAZA（市民交流センター）の充実	取組内容 利用者数 図書貸出冊数	新型コロナ感染防止に努めながら施設運営を実施。令和3年度と比較して利用者数も増加した。 利用者数：90,269人（うち、ホール入場者数：11,974人）、図書貸出冊数：15,156冊	4
		奄美川商ホール（奄美振興会館）の充実	取組内容 自主事業実績 利用者数	新型コロナのワクチンセンターであるため、通常の施設運営ができない時期もあったが、イベント開催規制が緩和され、施設利用者数も徐々に増加傾向にある。 施設管理者による自主事業として「十五夜唄あしび」を3年ぶりに開催し、207人の来客があり盛大に行うことができた。 利用者数：129,070人（うち、ホール入場者数：20,755人）	4

文化芸術活動の促進	奄美市民文化祭の開催	取組内容 出品数・出演団体数・観覧者数	新型コロナの影響で、参加団体の練習ができない状況もあり、特に舞台発表の参加団体数は例年より減少したが、文化協会と協力しながら、3年ぶりに無事開催することができた。今後は参加団体数が回復するよう参加の呼びかけに努めたい。 開催期間:令和4年10月28日～11月6日(うち、舞台発表10月28日～10月30日) 出品数:約400点(参加団体数13団体),出演団体数:38団体(約600人),観覧者数:約5,000人	5	
	奄美市美術展覧会の開催	取組内容 出品数・出品者数・観覧者数	新型コロナの影響で、3年ぶりの開催となり、例年より出品数が減少したが、実行委員会と協力して無事開催することができた。作品制作期間が必要なことから、開催について早い段階での周知に努めたい。 開催期間:令和5年2月12日～2月19日 出品者数:1,035人,出品点数:1,122点,観覧者数:1,564人	5	
	県民文化フェスタinあまみ2022の開催	取組内容 来場者数 出品数・出演団体数	県文化協会主催の県民文化フェスタを奄美群島で初めて開催した。奄美群島各地域の伝統芸能を披露し、盛大に開催することができた。 開催日:10月16日(日),来場者数 約900人 出品数:165点(参加団体数11団体(うち奄美市8団体,瀬戸内町,伊仙町,和泊町各1団体)) 出演団体数:10団体(奄美市3団体,大和村,宇検村,瀬戸内町,徳之島町,伊仙町,知名町,和泊町各1団体 計約200人)	5	
	小・中・高校生を対象とした九州・全国大会への参加費助成	取組内容 助成実績	文化・芸術部門の九州大会及び全国大会に出場した個人,団体の旅費等の補助を行い,参加者の負担軽減を図った。 九州大会:2団体,全国大会:個人6名,1団体 計:個人6名,3団体	5	
地域文化の継承・発展	伝統文化保存事業の実施	取組内容 実績	赤木名八月踊り保存会の八月踊り(全18曲収録)を収録。15枚制作し,赤木名八月踊り保存会他,市役所関係課へ保存用として配布した。	4	
新型コロナウイルス感染症緊急対策事業	子供たちの元気活動応援事業	事業の活用推進	取組内容 交付件数	新型コロナの影響から学校行事や部活動等,活動が制限された子ども達の仲間との交流を促進するため,学校行事や各種団体の活動に対し,助成金を交付し活動支援を行った。 交付件数:94件	5

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(文化財課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和4年度の成果と課題	評価
子どもたちの情操育成事業	シマグチ伝承推進活動	学校での取組推進、地域行事への積極的な参加	シマグチ・シマユムタの伝承活動の推進を図る。	各学校における郷土学習の取組支援として、各校区からの講師として延べ30名を招聘し、107回のシマグチ伝承推進活動の支援を行った。 島口教訓カレンダーの音声CD化について、令和4年度は名瀬・古見地区の西田・西仲勝、伊津部勝、名瀬勝、小湊、崎原集落で地区の高齢者から聞き取り・録音及びCDを作成し、校区内学校へ配布した。	4
社会教育施設(文化財保護施設)の管理運営	宇宿貝塚史跡公園の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値1,500人に対して、1,629人(3年度:1,114人)と目標を上回った。 また、宇宿貝塚保存活用計画について、令和4年度は2回の会議を実施し、国指定「宇宿貝塚」を適正に保存しながら地域資源として活用し、地域振興に資する保存活用計画を策定した。今後は保存活用計画書に基づき、改修など必要な措置を講じていく予定である。	4
	奄美博物館の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値10,000人に対して、年間入館者数が11,629人(3年度:7,556人)と3年ぶりに1万人を上回った。 11月1日に奄美博物館運営委員会を開催し、3年度事業報告・4年度事業計画のほかに、博物館として展示方法の工夫や資料収集、企画展全般について協議を行った。 奄美博物館35周年企画展「奄美の野鳥展」(来館者1,384名)・奄美群島日本復帰70周年企画展「ウサギ展～アマミノクロウサギのいろは～」(来館者1,437名)を開催した。 アンケートでは「大変満足」「満足」が90%を超えた。	5
	講座・講演会等の実施	館内での講座や講演会等を実施するとともに、学校や地域・職場等に出向いた講座・講演を受諾し、情報の発信を行う。	奄美の自然・歴史・文化に関する講演会等を5回開催し、212人の方が参加した。 また、島内各地の学校や各種団体の出前授業を30回開催し、1,127人の方々に啓発普及を行った。 「奄美旧暦行事カレンダー」をA4版を4,500部、A3版を1,000部印刷・刊行、販売し、全国各地の奄美出身者や奄美ファンの方々に、奄美の魅力を伝えた。 古文書解読自主講座を16回(421人)、古文書サークルを11回(103人)への支援協力を行った。 駒澤大学:須山教授の協力を頂き、奄美博物館講座として街歩きフィールドワークを復活し、名瀬市街地と赤木名地区で2回開催した。 今後も、奄美の自然・歴史・文化に関する最新の研究成果を反映させた普及啓発イベントを実施する。	5	

	歴史民俗資料館の管理運営事業	入館者数	館の適正な維持管理を行うとともに、展示環境の整備・充実を行い、入館者増を図る。	入館者数の目標値2,000人に対して、2,447人と3年ぶりに2千人を上回った。 昭和57年の開館から約40年が経過し、老朽化が激しいため、今後の施設のあり方を笠利支所とともに検討していく必要がある。	4
文化財保護事業	文化財保護総務事業	指定文化財の保護と活用	審議会委員の意見等を反映して保護と活用を図る。	11月2日に文化財保護審議会を開催し、会の中で事業報告・事業計画の説明のほか、赤木名地区のサンゴ石垣の指定文化財の新指定について、現場視察・協議及び諮問を行った。 開発計画及び行為に対して協議(埋蔵文化財に係る照会と調整:13件、天然記念物に係る照会と協議:13件)を行った。 ふるさと納税活用事業を活用して、奄美群島日本復帰請願署名簿等の修復と指定文化財の案内板2基の設置及び文化センター敷地内の古民家の説明版を改修した。 また、文化財所在地周辺の草木伐採を実施し、環境の整備を行った。 令和5年2月12日(日)に国指定史跡宇宿貝塚において、文化財防火訓練を実施し、避難誘導訓練・初期消火訓練を行った。 参加者:大島消防組合、笠利地区消防団、文化財保護審議会委員、宇宿集落住民。笠利支所職員 合計約40名。	4
	小湊フワガネク遺跡保存活用事業	国指定史跡及び重要文化財の啓発普及事業	所在地域との連携・協力。啓発普及活動(学習会)の開催。	小湊フワガネク遺跡の普及啓発を目的として『小湊フワガネク遺跡保存活用計画書』に基づき、夜光貝アクセサリー製作講座を実施(4回:92名)するとともに、朝日小学校(約100名)・小宿小学校(約70名)においてもアクセサリー講座を開催した。 今後は、『小湊フワガネク遺跡保存活用計画書』に基づき、恒久的な遺跡の維持管理及び保存活用を図る必要がある。遺跡周辺の伐採作業など環境整備は継続して行っているが、他の具体的な目標(出土遺跡展示施設の開設・遺跡出土地域の用地買収等)に対して、業務としてほとんど進展が無かったため、評価は「3」とした。 新年度において、小湊地区のまち歩き博物館講座を計画している。	3

IV 奄美市教育委員会事務事業自己点検・評価シート

課名(スポーツ推進課)

重点施策	評価項目	評価の観点	評価の着眼点	令和4年度の成果と課題	評価												
新型コロナウイルス感染症対策と市民スポーツの推進	・「WITHコロナ」時代への対応	・感染状況に応じた施設の運用	・基本的な感染対策ができたか	「奄美大島コロナ警戒レベル」解除後においても、所管施設においては基本的な感染対策(手指消毒, こまめな換気等)を継続して実施できたことから評価は「4」とした。 今後も「コロナはなくなる」との考えの元、施設利用者への啓発も含め徹底したい。	4												
各種スポーツ行事の開催	・本市(市体育協会)主催の各種スポーツ行事の再開	・「実施態度」の判断	・判断にあたっては事務局単独でなく、市民スポーツの観点、関係団体の意見を反映できたか	スポーツ行事の再開については、残念ながら「地区対抗駅伝競走大会」のみとなった。しかし、「実施態度」の判断にあたっては、新型コロナの感染状況に鑑み、各地区体育協会の意見を総括するとともに、最終的な判断者である体育協会長に答申し判断することができたことから評価は「4」とした。	4												
スポーツ合宿の発展に伴う交流人口の拡大と奄美スポーツアイランド協会の体制再構築	・合宿チーム数・人数(実績) ・奄振事業(補助)の活用	・実績 ・チーム要望への対応と体制再構築の進捗状況	・実績の増減はどうだったか ・チームの要望にきめ細やかな対応ができたか ・体制再構築は計画的に進んでいるか	合宿チームの実績はコロナ禍以前の活況に向け着実に復調の兆しを見せており、団体数・選手数においても過去最高に迫る状況であった。 令和3年度からの奄振事業(補助)を活用し、空港⇄宿舎⇄練習会場への送迎や軽微な施設の修繕等きめ細やかな対応ができており、リピートや新たな誘客に繋がっているものとする。 スポーツアイランド協会の体制再構築にあたっては、過去2か年で全国の類似団体へ調査を実施し、その分析結果を用いて今後の当協会の方向性について検討しており、計画的に進捗できていることから評価は「4」とした。 【実績】 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>R4</th> <th>R3(参考)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>団体数</td> <td>93</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>実人数</td> <td>1,359</td> <td>883</td> </tr> <tr> <td>延宿泊人数</td> <td>13,013</td> <td>8,764</td> </tr> </tbody> </table>		R4	R3(参考)	団体数	93	72	実人数	1,359	883	延宿泊人数	13,013	8,764	4
	R4	R3(参考)															
団体数	93	72															
実人数	1,359	883															
延宿泊人数	13,013	8,764															
燃ゆる感動がごしま国体「特別国民体育大会」(相撲競技会)の開催	・国、県相撲連盟との連携強化 ・放送委員の育成 ・市民の機運醸成	・調整会議の実施 ・放送委員の派遣回数 ・イベントの開催	・日本相撲連盟、県相撲連盟との意見交換はできているか ・放送委員を各大会へ派遣し研鑽を積めたか ・イベント開催をとおして広く市民に広報できたか	日本相撲連盟及び県相撲連盟については日頃より連絡を密にし、調整会議等において確認をとりながら準備を進めている。 放送委員についても令和2年の延期決定から途切れることなくトレーニングを重ねており、競技会の進行を担う重要な競技役員として育成できているものとする。 さらに令和4年度においては、後催県である佐賀県との「エールプロジェクト」とおして両県の文化交流を図るとともに、「国体一年前イベント」として大島地区選手権大会・奄美市職域相撲大会を開催し、相撲競技の振興と合わせて特別国体の周知広報に努め、市民の機運醸成を図ることができたことから評価は「4」とした。	4												